

自ら学び主体的に判断し行動できる生徒の育成
～確かな学力・豊かな人間性を育む教育活動～

小田原市立千代中学校

1 事業の目的

本校は学校教育目標を「自ら学び、主体的に判断し、行動できる生徒の育成」とし、これからの時代をたくましく生き抜き、未来を拓く力を育てることをめざし、教育活動に取り組んでいる。令和2年度の研究の中で、課題として挙げられた次の4点を中心に学校経営計画（グランドデザイン）の具現化をめざし研究を深めた。

2 事業の内容

(1) 校内研究の充実を図る（授業づくりとその評価）

- ・学習指導要領実施に向けて、改訂の趣旨を理解し、目指す能力や資質・能力を育むために「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で授業改善を進めた。
- ・昨年度に引き続き、先進校の教員を講師として招き、改訂の基本方針や具体的な授業や評価について講話による理解の深化を図った。
- ・生徒が見通しを持ち、粘り強く学習に取り組み、確かな学力を身に付けるための方策について考えた。年間計画と単元計画に基づく授業として、「千代中学びプラン」を学年ごとに作成し配付した。また、各単元の始めに単元計画の説明、終わりに振り返りを行い、生徒自身が自分の学びを調整できるようにした。
- ・生徒の学力の定着や意欲につながるテスト（定期テスト、単元テスト）のあり方を研究した。
- ・指導と評価の一体化のために、教員が授業を振り返り次に生かせる授業アンケートを再検討し実施した。



(2) 教育相談を充実させ、不登校を減らす取り組み

- ・生徒の行動に対して支援、指導の側面から生徒を理解して対応を考えた。
- ・S C、関係機関、小学校との連携を図り、生徒にとってより良い支援のあり方を考えた。また、校内支援室の利用は柔軟にしつつも、目的をもって利用できるように、面談を定期的に行った。



(3) ICT教育の推進

- ・ICTを活用した授業の実施に向けて環境の整備を行った。
- ・教科、行事、総合等で積極的に学習用端末を活用し、可能性を探った。
- ・情報教育、道徳教育を推進し、他者と共によりよく生きていくためのスキルを身に付ける指導を工夫した。

(4) 学校・地域・家庭がWin-Winの関係になる連携

- ・社会に開かれた教育課程の実現のために、より良い社会を創るための教育活動を地域社会と共有するために、学校評議員会で、千代中学校の取り組みを伝え共有した。
- ・PTAと連携し、携帯スマホとのつきあい方、命の授業、リーダーシップ等の講演会や学習会を行った。

3 事業の成果

上記（１）～（４）を重点として取り組んだ。中でも（１）については、学習指導要領が変わったということもあり、確かな学力をつけていくための研究に学校職員が一丸となって取り組んだ。生徒に身に付けさせる知識・技能、思考・判断・表現力、主体的に学習に取り組む態度をどのように育て、どのように評価するのかという課題に真摯に向き合った。年間計画、単元計画、単元計画とその評価のあり方、そして主体的に学ぶ態度をどのように付けていくのかという課題に取り組み、各自が試行錯誤しながら、生徒の生きる力を支える三要素の育成に努めてきた。新型コロナウイルスの感染状況によって、教育活動が制限されることもあったが、学習用端末等を活用しながら、協働的な学びが実現できるように工夫した。試行錯誤をする中で、成果や課題が明確になってきた。

（２）について

配慮が必要な生徒に対し、週１回の支援会議を行い、支援のあり方を検討したり、外部機関やスクールカウンセラーとの連携を図ったりしながら、一人一人にあった支援プランを模索した。しかし、必要な支援が多岐にわたり、教職員が精一杯行っても、十分な支援が物理的に難しいことを実感することにもなった。

インクルーシブ教育については、令和２年度に作成した千代中学校のガイドラインに沿って行った。また、東京 2020 パラリンピックで活躍したボッチャボールを学年の活動や球技大会の種目の一つとして取り入れてみた。特別支援学級では、授業の中で取り組んでいたが、他の学級では、初めて触る生徒が多く、興味をもって活動していた。総合的な学習や道徳等を通して、命を守るための防災教育や子どもの人権についての学習を学校全体で行い、お互いを大切にする心を育てた。



（３）について

ICTの活用については、一人一台の学習用端末により、急激に加速した。情報モラルなどもそれにともなって指導することができた。行事や総合的な学習、各教科で積極的に活用し、その可能性を探ることができた。９月の短縮日課などで、オンラインでの授業配信なども行うことができた。今後は、端末を使うことの善し悪し、必要性をさらに考えて効果的な活用をしていきたい。



（４）について

地域連携については、今年度も直接にふれあつての活動が制限された。その中で、２年生は職場体験に代わる行事として、企業の方とオンラインでやりとりをして、働く意義やSDGsを絡めて企業の取り組みについて学ぶことができた。

学校評議員会では学校評価を見直し、千代中学校がめざす生徒像や教育活動を明確にすることができた。コロナ禍が終息するまでに、総合的な学習の時間を見直し、行事の精選などカリキュラムマネジメントに取り組んでいきたい。

